

ボービントンの街を通過して、いざ戦車博物館へ。しかし、途中で思わぬハプニング。それは何？



右方向に曲がってすぐはこんな細い道が続きます。



イギリス国旗のはためく家。似合ってますね！



御前達はどこの国から来た者だニャ、といった感じで通る間ズーッと私達を見ていました。



しばらく歩いていると、下写真のようなボーピントンの街並みが見えてきました。少し登り坂です。



同じような形と色合いの家が続いていました。かなり家の数は多かったですね。

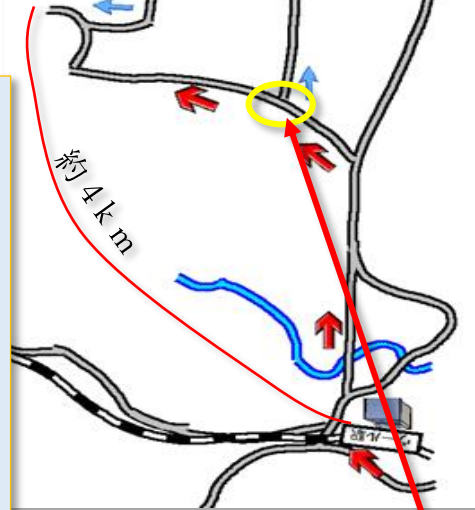


柵、鍵がかかっている！



戦車博物館

ボービントンの街



良い街で歩いてきて正解だったと、喜んでいたところ何と！ボービントンの街並みの北端付近（右図×印）では上写真のように柵があって鍵がかかっているではありませんか！妻からは叱責されるし、トホホで引き返すことにしました。実は歩いている途中でタクシーの運転手さんから、「そっちに行ったら行き止まりだよ。戻って他の道を通らないと行けない」と言われていたのですが、きっとタクシーを利用させようとしているんだ、と思って聞く耳持たなかったのです。



仕方無く、この道をトボトボと最初のこの分かれ道まで戻らなくてはいけないのかと歩いていました。すると、日本人2人が歩いているのが珍しかったのか、英国人から「戦車博物館を見ての帰りか？」と聞かれました。それで、「イヤ、途中で行き止まりになったので元来た道に戻るところだ」と言ったところ、「あそこは行き止まりでなくて、柵の鍵のかかった所から左に細い山道があって戦車博物館に行ける」との事！



しかも！途中まで案内してくれるとのこと。途中色々話しましたが、カワサキのバイクが好きで乗っているとの事。それから日本人だと言ったら「スペインやポルトガル在住の日本人か？」と言うので「日本から昨日来たばかりだ」と答えたら大変驚いていました。こんな街中を通る日本人は珍しかったのでしょう。



抜け道は右写真のように右側に鉄条網の張られた柵が続く細い道がしばらく続きました。これで到達できるのか？と少々不安でしたが、歩き続けました。





しばらく上写真の景色が続きましたが、しばらく歩くと下写真のように柵はありますが、広々とした場所に出ました。ホット一息でした！

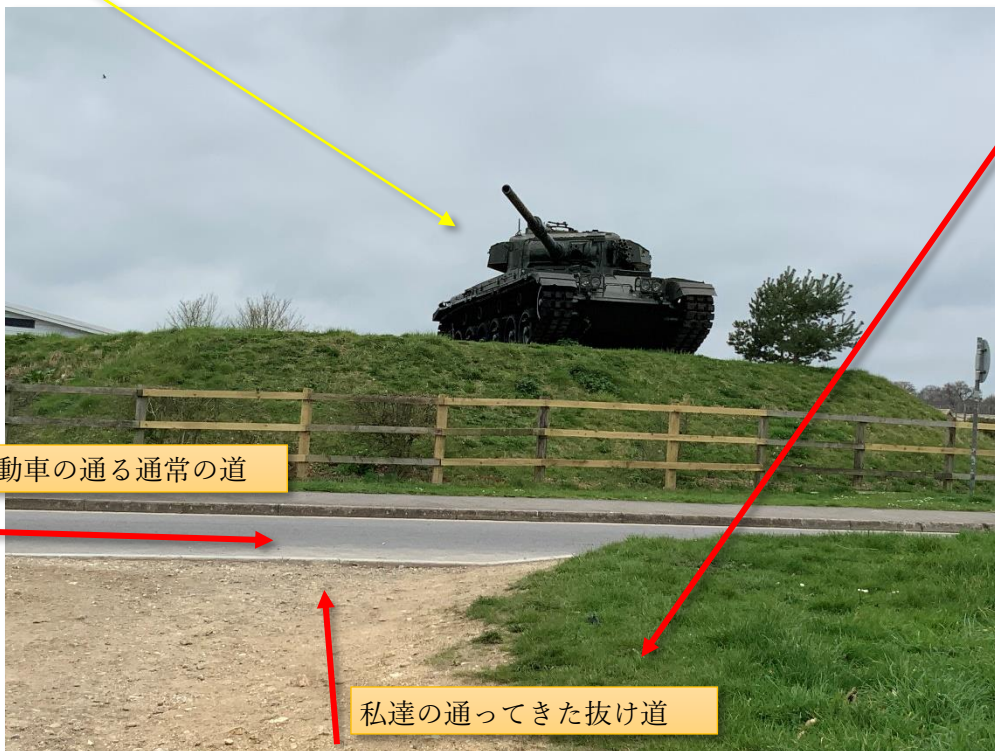


しばらくまた歩いて右方向へ曲がると、戦車が見えてきました。また、芝生の中にはサッカーゴールやフットボールの柱が見えてきました。



この道の反対側の芝生も広々としていて馬も走ってましたが、乗馬教室もあるようでした。この時には妻とも言い合いになったりしてスッタモンダの旅でしたが、後で考えれば良い思い出になりました。英国人とも色々世間話を話す事も出来たし貴重な体験となりました。

私達の通ってきた抜け道と車の通る道路との交差する場所には戦車が飾ってありました。凄い！



ムービーから取った画像なので少し不鮮明ですが、戦車と一緒に記念撮影。この後の戦車博物館内の紹介は改めて戦車博物館の頁を作って紹介してみます。これを記載したのは令和元年5月4日（日）です。後2日間の連休中に戦車博物館の旅を書き上げられると良いですけど。